

謹賀新年

平成22年（2010年）1月1日発行

年頭の辞

想像力に優れた エンジニアに



学長 柳澤 章

新年あけましておめでとうございます。2010年が、よき年となりますことを願います。

さて、一昨年のリーマンショック、昨年の政府によるデフレ宣言と経済的な環境は厳しい状態が続いていますが、科学技術工学に携わり、学び、研究活動を進める本学にとって、ますます大きな活躍が期待される時代となっています。

ガソリンエンジンから電池で動かすモーターへの転換で、自動車部品は大きく変わります。自動車産業とは機械産業、エレクトロニクス、システム工学、情報工学をはじめ広い分野にわたり、非常に大きな産業の転換が求められているといえます。

また、製造業だけでなく一般住宅においても、家庭での太陽光発電で余った電力は電力会社が買い取ることを義務づける制度が始まっています。これは、住宅へのソーラパネルの取り付けが増えるということとどまらず、将来の住環境をデザインす

る上で、暮らし方の提案に大きく関わってくることをいえるでしょう。

これら、時代の大きな流れは、本学の教育研究をはじめ、卒業生の就職動向等にも種々影響が出て来る事と思われま

今日、時代においてエンジニアは、その製品、その技術が人間社会、地球環境にどのような影響を及ぼすか。そして、すでに生じている問題の解決にどう役立てることが出来るかを考えずには仕事ができなくなっているといえます。ものづくりが楽しい、コンピュータが好きだということと

もに、それが人々にどう使われるかへの想像力に優れたエンジニアこそが求められているのです。これは、本年2年目を迎える新学科の主旨でもあります。

本学では、多くの学生諸君が地域の環境問題とふれあっています。世の中にはおもしろいことを思いつく人たちがいて、最近ある学生団体が、スポーツごみひろいというイベントを行っていることを耳にし

た。このイベントでは、多くの人達が、明るく楽しく参加でき、環境貢献への達成感と自分が役に立っていることが実感できるでしょう。このニュースには、若者の柔軟な発想を感じる事ができます。

ごみは人間の行動を具体的に知るうえで最適な教材といえます。どうすればごみを減らせるのか。人間の行動に応じて廃棄物を削減する技術を考える。あるいは、廃棄物を減らすように人間の行動を仕向けるような製品を開発したり、住環境、都市環境をデザインするというのもあるでしょう。

製造業の現場に就職すればゼロエミッション（廃棄物ゼロ）が重要な仕事となります。そういうえば、昨年のイグ・ノーベル賞の受賞者は生ごみの大幅減量をパンダのふんの園で成功させた功績を称えられた日本の科学者でした。

今年は、柔軟な発想で、未来社会のあり方、あるいは求める技術を考える大学運営をしたいと考えています。

金型人材養成研修

10/20(火)～12/5(土)
本学では、埼玉県・埼玉県中小企業振興公社が経済産業省の「地域企業立地促進等事業費補助金」(平成21年度事業)を受けて実施する「埼玉県自動車関連産業活性化人材養成等事業」を活用した、金型人材養成研修を行った。本学の他に、埼玉県に立地する東洋大学は、自動車づくりリーダー養成研修を行っている。



開講の挨拶をする学長 (CAD/CAM/CAE演習室)

金型人材養成研修では、自動車部品に関するプレス金型及びプラスチック金型分野における技術革新に対応できる技術者育成をめざし、次のような4つの講義科目を用意した。第一に本学のCAD/CAM/CAE科目である。

受講生は、埼玉県に立地する金型専門企業、プレス金型やプラスチック成形を行う金型部門をもつ企業などから派遣された技術者31人である。

こうした授業を通して、本学と埼玉県企業との多様な連携が形成され、地域に根ざした「産学連携」が一層深まることが期待される。

12月19日(土)機械システム学群で 高校生向け記念講演会



照明の歴史から始め、LED照明について講演する田村暢宏氏



パネルには両講師と在学生の山田君、佐藤・渡部両主任が登壇(司会・中里)

本学機械システム学群では、今年度、「ものづくり環境学科」を新設、システム工学科を「創造システム工学科」に名称変更し、2つの新学科がスタートした。これを記念し、昨年12月19日(土)午後1時から、LCセンター・マルチメディア教室を会場に、高校生を対象とした講演会が開催され、多くの高校生が本学を訪れた。

当日のプログラムは、各学科の企画による講演と、「あかりを変える、未来が変わる」環境に貢献するLED照明に関する内容で、来、照明一筋に携わってきた第一人者である。

望する内容のパネルディスカッションという3つの柱で構成されている。ものづくり環境学科は、LED照明の発達」と題し、東芝ライテック環境推進部部長・田村暢宏氏が講演した。同氏は、昭和59年に東芝

ロボット創造コースのある創造システム工学科は、「ロボットって何だろう。感性の世界と先端技術」と題し、プロダクトデザイナーでznugdesignを主宰する根津孝太氏が、新世代型ヒューマノイド(人間型ロボット)に関して語った。

当日、午前中には、創造システム工学科とZMP社で共同開発した126cmの人間型ロボットの記者発表が行われたが、根津氏は、このロボットをデザインしたデザイナーであり、お披露目したロボットのデザインプロセスをたどるながら、その開発秘話を語った。

上記2講演を踏まえたパネルディスカッションのある創造システム工学科は、「ロボットって何だろう。感性の世界と先端技術」と題し、プロダクトデザイナーでznugdesignを主宰する根津孝太氏が、新世代型ヒューマノイド(人間型ロボット)に関して語った。

1/16～17 本学が センター試験会場へ

大学入試センター試験が1月16日(土)・17日(日)の両日にわたって実施される。本学は、今年度の大学入試センター試験の試験会場(隔年開催)となっている。

日本工業大学 平成22年度入試日程

日本工業大学 工学部
●機械工学科 ●ものづくり環境学科 ●創造システム工学科 ●電気電子工学科 ●情報工学科 ●建築学科 ●生活環境デザイン学科

入試種別	日 程	
特別奨学生入試 【筆記試験、調査書 および面接による選考】	出願期間	1/ 7(木)～1/28(木)
	試験日と試験会場	1/31(日)～2/ 2(火) 本学
	合格発表	2/12(金)
	奨学生には、1年次の学費の半額を免除	
一般入試	出願期間	1/ 7(木)～1/28(木)
	試験日	1/31(日) 本学・郡山・水戸・高崎 2/ 1(月) 千葉・東京・静岡 2/ 2(火) 本学・仙台・柏・東京 横浜・新潟・長野 2/ 2(火) 本学
	合格発表	2/12(金)
	センター利用入試A	センター利用入試B
センター利用入試	出願期間	1/ 7(木)～2/1(月)
	試験日	2/ 4(木)～2/17(水)
	合格発表	2/18(木)～3/10(水)
	センター利用入試C	センター利用入試D
AO入試 ・AOエントリー入試 ・AOコーディネータ入試	出願期間	1/15(金)～3/ 5(金)
	エントリー入試のエントリー期間	平成22年3月上旬まで、随時受付
	コーディネータ入試の申込期間	書類受理後に連絡
	面接・面接等	書類審査等
AO入試 ・AOエントリー入試 ・AOコーディネータ入試	出願期間	3/ 5(金)～3/12(金)
	試験日	書類審査等
	合格発表	3/20(土)
	書類審査等	

・各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。

募集要項(願書)のご請求およびお問い合わせ先
〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学 教務部入試室
☎0120-250-267 URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

社会人大学院生 募集！(日本工業大学 社会人特別選抜)

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程
●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

■平成22年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月13日(土)～2月19日(金)	2月26日(金)	書類選考・面接	3月4日(木)	3月12日(金)

願書のご請求およびお問い合わせ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507(直通)

働きながら学べる専門職大学院 第6期生 募集！

日本工業大学 専門職大学院 技術経営研究科 ●技術経営専攻
中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/新事業創造・起業コース

■平成22年度 専門職大学院 入試日程

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切日
第3回募集	12月14日(月)～12月21日(月)	1月10日(日)	1月13日(水)	1月21日(木)
第4回募集	2月15日(月)～2月22日(月)	2月28日(日)	3月3日(水)	3月11日(木)

願書のご請求およびお問い合わせ先:
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院
TEL: 03-3511-7591 FAX: 03-3511-7594

本年工業技術博物館長の松野建一教授が平成21年秋の叙勲において瑞宝中綬章受章の栄に浴した。

同教授は昭和43年から平成9年まで通商産業省工業技術院機械技術研究所(現・独立行政法人産業技術総合研究所)に勤務して研究・指導・管理に従事し、その後平成13年度までの研究開発プロジェクトの推進を行ったほか、国や団体等の各種委員としても



工業技術博物館長 松野教授に叙勲

●年頭所感●

未来に貢献する 価値の創造に向けて

削減はいずれも将来的な地球環境を見つめ、現在すぐに手を打たなければならぬ問題です。この問題への対応、解決手段の開発には、工学が大きな鍵を握っていると言えるでしょう。



理事長 大川 陽康

昨年は、米国で初の黒人大統領としてバラク・オバマ氏が就任し、日本でも自民党の55年体制に終止符が打たれ、民主党が政権を握るなど、激変の年でありました。

また、米国から端を発したリーマンショックによる世界同時不況など、大きな変革の流れが渦を巻いていると言っても過言ではない

オバマ氏が提唱する「グリーン・ニューディール政策」、鳩山氏が提唱する「CO₂25パーセント

学科の学科名変更を行いました。即ち「ものづくり環境学科」「生活環境デザイン学科」の新設であり、「システム工学」から「創造システム工学」への名称変更であります。この改組により3学群7学科体制と、学問分野を広げました。それぞれの分野で、未来に貢献する価値を創造する、チャレンジ精神に富んだ21世紀型の技術者を育成してまいります。

ISO・9年度は、教職員・学内関連会社・学生が一体となった環境マネジメント活動により、環境目標17項目中14項目で目標を達成している(表参照)。

今年度は、省エネ法改正、消防法改正等大きな法令改正が施行されている。省エネ法では事業所(キャンパス)単位から事業者(学園)単位の管理への変更、消防法にあっては単独の防火管理から大規模自然災害を考慮に入れた防災管理へと改正されている。このような変革の中での本学のISO・9年度活動の一端を紹介する。

来年度以降も今年度の成果を継続・発展させるとともに、さらに、環境における社会的責任を認識し、工業教育の理想を追求する本学の教育環境の中で、環境教育・研究の一層の進展を掲げ、具体的目標の達成に向かって活動を進めていく。

来年度は、省エネ法改正、消防法改正等大きな法令改正が施行されている。省エネ法では事業所(キャンパス)単位から事業者(学園)単位の管理への変更、消防法にあっては単独の防火管理から大規模自然災害を考慮に入れた防災管理へと改正されている。このような変革の中での本学のISO・9年度活動の一端を紹介する。

来年度は、省エネ法改正、消防法改正等大きな法令改正が施行されている。省エネ法では事業所(キャンパス)単位から事業者(学園)単位の管理への変更、消防法にあっては単独の防火管理から大規模自然災害を考慮に入れた防災管理へと改正されている。このような変革の中での本学のISO・9年度活動の一端を紹介する。

来年度は、省エネ法改正、消防法改正等大きな法令改正が施行されている。省エネ法では事業所(キャンパス)単位から事業者(学園)単位の管理への変更、消防法にあっては単独の防火管理から大規模自然災害を考慮に入れた防災管理へと改正されている。このような変革の中での本学のISO・9年度活動の一端を紹介する。

鈴木清研究室に5軸複合工作機械導入

2009年9月初旬に、望みのマルチタスキングマシン「インテグレックス・INTEGR EX100-III」がものづくり環境学科



導入した機械と担当者の卒業研究生・中村圭吾君

鈴木清研究室に導入された。この機械は工作機械のグロバライザーであるヤマザキマザックが世界に先がけて開発した5軸加工対応の複合工作機械であるマザトロールという優れた制御装置を搭載し、複雑形状の部品を極めて能率良く高精度に加工できるのが特徴

微で、米国の航空・宇宙産業にも多数採用され人気商品となっている。

鈴木清研究室では、この機械を用いて近年注目を浴びている「マイクロナバール」や「マイナスイオン」を活用した環境に優しい先端加工技術の開発や、超微粒低石による精密研削加工の実現を目指している。

本機はNCものづくり工房での実生産教育への利用も予定されており、その成果が期待される。

鈴木清教授は、「最新鋭の機械で研究や実習ができることは学生にとって貴重な経験となる。高価な機械をお貸し下さったヤマザキマザック殿に感謝したい」と語っている。

き出した環境系2学科(平成20年12月16日)。参加者数・1001名

■「2009・NEW環境展」への出展(平成21年5月26日・29日)

①研究発表・体験による環境教育。キャンパスのEコマニュケーション「QRコード」操作ボックスを

昨年9月13日(日)と11月15日(日)に本専門職大学院の入試が行われ、9名の合格者が決定した。

1年制の厳しい勉学日程の緩和のため、科目等履修生制度を活用、前年秋季学期から履修を始める「10月履修開始プラン」が本年度より運用が始まり、3名の来年度入学者が在学中に混じって熱心に受講している。

本大学院は、中小企業向けMOET教育に特化して、働きながら学ぶ1年で技術経営修士(専門職)を取ることができるのが最大の長である。パンフレット、印刷物、ホームページや大学院関連ネットなどで広報に努

来年度(6期生)の入試始まる

1/23(土)に「中小企業技術経営シンポジウム」開催

専門職大学院だより

調講演に始まり、学内外の専門家による3つの特別講演や修了生による研究発表などの多彩なプログラムが用意されている。終了後は懇親パーティーも開催される。中小企業のMOETの重要性およびその中核教育機関である本大学院の活動を広く知っていただくべく、鋭意準備を進めている。

専門職大学院からのお知らせ

オープンキャンパス

第4回 2010/2/13(土) 13:00~17:00

説明会、模擬授業、パネルディスカッション、修了生・在学生とのフリートークセッション など

会場：日本工業大学 神田キャンパス3階

中小企業技術経営シンポジウム

～中小企業のイノベーションが日本を救う！～

2010/1/23(土) 15:00~18:00

基調講演、特別講演Ⅰ～Ⅲ、研究発表

会場：学士会館(千代田区神田錦町3-28)

申込専用サイト：<http://www.secure01.jp/mot-nit/>

◆お申し込み、お問い合わせは・・・

日本工業大学 専門職大学院

TEL. 03-3511-7591 FAX. 03-3511-7594

E-mail mot@kanda.nit.ac.jp

ISO-9年度 環境目標達成状況

(2008年10月～2009年9月)

ISO-10年度の活動に向けて

環境目的	環境目標	主要実績	評価
1 持続的発展が可能な社会の実現を担う人材・高級科学技術者の育成に資する環境教育プログラムの策定、構築	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定	①環境教育プログラムをテーマとしたシンポジウムの開催 ②大学案内「環境が学べる」ページの作成	○
2 持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級科学技術者の育成	環境学修プログラムの実践による持続的発展が可能な社会の実現を担う人材の育成	環境関連科目41科目を通じ、延べ7840名に実施	○
3 体験的環境教育の推進	①エコ・ミュージアムの整備及びQRコード(環境情報発信)による体験的環境教育の普及・推進 ②学外における体験的環境教育の実施	①エコ・ミュージアムの整備 ②環境情報(QRコード)の拡大、発信 ③エコ・ツアーの実施	○
4 環境に関する研究の推進	①教職員、学生の協働による研究の推進 ②環境に関する研究の推進	①「環境分野研究奨励助成金」制度による研究推進 ②研究論文、共同研究等の刊行物での公表 ③卒業研究等における環境関連テーマの推進	○
5 環境コミュニケーションの推進(環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成)	環境関連情報の発信とコミュニケーションを通じた環境共生意識の啓発、普及を図る	①環境特別講演会の開催(学生・市民へ公開) ②ホームページ等による環境情報発信 ③「2009NEW環境展」への出展 ④本学環境関連施設見学会の実施	○
6 持続的発展が可能な社会の構築に向けた社会・地域との連携、協働の推進	自治体、諸機関との連携・協働、他大学との交流を図る	①宮代町との連携、協働 ②スターリングテクノロジーの開催 ③他大学との交流 ④私立大学環境保全協議会との連携	○
7 環境教育(学生環境推進委員会への支援とコミュニケーション)	学生環境推進委員会への支援及び学生とのコミュニケーションを回り連携を深め、準構成員である本学学生の環境意識を向上させ、環境教育の充実を目指す	学園祭への参加、講演会、彩の国資源循環工場の見学、学内のばり設置	○
8 電力使用量の削減	前年実績の1%削減	前年実績の3.2%削減	○
9 ガス使用量の削減	前年実績の1%削減	前年実績の9.6%削減	○
10 上水使用量の削減	前年実績の1%削減	前年実績の15.6%削減	○
11 紙使用量の削減	予想使用量の1%削減	目標値の1.9%増加	×
12 廃棄物の削減・適正管理	予想排出量の1%減量化、一般廃棄物の資源率60%以上	予想排出量の8.4%減量化、資源率91.1%	○
13 緑地整備・保全	長期計画に基づく整備・保全	緑地の維持管理、植栽等	○
14 グリーン調達の積極的な推進	グリーン調達率の向上(事務用品のグリーン調達率65%以上)	グリーン調達率63.6%(金額ベース) ※なお、プリンター、複写機等については100%エコ商品を購入	×
15 安全・環境安全な化学物質の使用・保管管理および化学廃棄物の保有・排出管理へ向けての改良	安全性向上にむけた施策の策定、実施	化学物質の保管状況の調査を3月末、9月末の2回実施	○
16 教育・研究施設等の効率的・効果的活用及び管理・運営	施設マネジメント体制の構築と実施	教育系部門等の実地調査・改善推進	○
17 労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	労働安全衛生マネジメントシステムの構築	①労働安全衛生マネジメントシステムの構築 ②行動計画の作成、実践	△

第41回若杉祭開催される。

11／1にホームカミングデー、建築コンペ表彰式

第41回若杉祭が11月1日(日)から3日(火)まで開催された。

今年のテーマは、「G A T E A U」。これは、「ガトー」と読む。ガトーは、フランス語でお菓子、ケーキのこと。ケーキを彩るように若杉祭を飾るという意味が込められている。

今年の目玉企画は、3日間連続ライブだった。初日の“Ma y ’ n”のライブを皮切りに、2日目は井上喜久子、置鮎龍太郎、インパルス、オオカミ

少年のトーク＆ライブ、3日目は恒例となった「秋のからっ風こんさあと」で相川七瀬がライブを行った。会場となった体育館には、連日1000人を超す観客が訪れ熱気と興奮で溢れた。

会期中は、1日に第10回ホームカミングデー、建築設計コンペ表彰式が行われた。

今年も第41回若杉祭は大盛況のうちに幕を閉じた。



上段左：野外ステージでのイベント 上段中：模擬店 上段右：建築コンペ表彰式 下段：ホームカミングデー記念撮影

学生自治会中央執行委員会 委員長就任挨拶

皆様と共に

新しい大学創りを目指して

機械工学科3年 神田 大輔

(新潟県立新潟工業高校出身)



この度11月26日をもって第42期中央執行委員会委員長という大役に就かせていただきました。

時が経つのは早いもので、私が大学に入学して3年が経ちます。思えば、大学入学当時から様々な人との交流を目指してこの中央執行委員会に入り、新しい発見や体験をするために積極

的に行動してきたつもりです。その中で確かに「つらい」「やめたい」と感じることもありました。が、歴代の委員長の下、沢山の経験と何よりもかけがえのない仲間が幾度となく助けてくれました。そのような応援もあり私はここまで来ることができたのだと感じます。

さて、私は中央執行委員会委員長として、全ての学生の皆様がよりよい大学生活を送ることができるよう尽力させていただきます。このテーマについては歴代の委員長が挙げてきたことでもありますが、それだけ

に重要で、まだまだ進歩を続けるこの日本工業大学の中では、次々に新しい疑問、問題が出てくることと思います。その疑問や問題を一つでも多く解決するためにも、一人だけの考えではなく、

最後になりましたが、より良い大学を目指すためには学生の皆様と大学教員の職員の方々の理解と協力が不可欠です。繰り返しになりますが、我々、学生自治会は、日本工業大学に集うすべての学生の皆様が、より良い学生生活を送れるように努力をし、積極的に活動していきま

常には私にとって非常に大切な年になるはずですので、よろしくお願いいたします。

この一年は私にとって非常に大切な年になるはずですので、よろしくお願いいたします。

創造システム工学科が

授業用に大型ヒューマノイドを導入

本学創造システム工学科は、中里研究室とZMPで共同開発した教育用人間型ロボットを導入し、12月19日に記者発表を行った。ZMPは世界で最初に二足歩行ロボットの商品化に成功し、「PINO」、「nuvo」など本格的な二足歩行ロボットを全世界に販売しているベンチャー企業。「nuvo」から派生した同社の「e-nuvo」は経済産業省の「今年のロボット」大賞2008を受賞している。中里研究室は「e-nuvo」の開発に協力した経緯があり、同社とともに本格的な教育用人間型ロボットの開発に着手していた。

開会の挨拶は、実社会で役立つこと。中里准教授によれば、従来の教育用ロボット教材も小型ながら十分な機能を有し、教育用のロボットシステムとしては他大学にない斬新なものであった。今回はその実績を踏まえ、次のステップに進む。実社会に働きかけ、何らかの作業をさせるために、ヒトと同程度の大きさのロボットを用意する。今回発表されたロボットは身長126



記者発表後、ロボットを使った模擬授業が行われた

は他大学にない斬新なものであった。今回はその実績を踏まえ、次のステップに進む。実社会に働きかけ、何らかの作業をさせるために、ヒトと同程度の大きさのロボットを用意する。今回発表されたロボットは身長126

谷本・吉田研究室が

「次世代電池が拓く未来展」に

電気自動車を出展



当日の会場の様子

(エネルギー用に大容量化したコンデンサ)を蓄電に装着しており、市販EVで用いられるリチウムイオンなどの化学反応型2次電池が充電に数十分から数時間を要するのに対して、瞬時放電電を可能とする。

会場ではモーター一体型の車輪を終日回転させて、数分間での充電も実演し、多くの来場者から「単なるEVでなく面白い」と評価を受けた。

電池とEV関連で47社・5大学が出展し、3日間で9万7000人の来場を得て盛況であった。

第4回ビジネスプランコンテスト

11／4(水) 表彰式・特別講演

11月4日(水)13:00から学生会館で、奨励賞10組、優秀賞10組の表彰が行われ、栄えある学長賞は、「デリバリーイラストステッカー」プランの江連勇輝君(システム工学科4年)に輝いた。表彰式の後、各優秀賞受章者のプレゼンテーションを行い、富士重工業の青山部長より特別講演をいただいた。学生、企業の方で100名以上の参加者があり盛況であった。

■第4回ビジネスプランコンテスト優秀賞受賞者

審査結果	氏名	プラン名
優秀賞(学長賞)	江連 勇輝	デリバリーイラストステッカー
優秀賞(センター長賞)	西山 詔太	WEBカメラを用いた映像の保存&提供サービス
優秀賞(特別賞)	○大関 計貴 鈴木 隆浩 古谷 達也	農業体験流入山〜有機野菜のすべて〜
優秀賞	古山 隆浩	紅茶コーディネータによる紅茶専門喫茶店
優秀賞	渡邊 翔太	教科書の古本屋さん
優秀賞	芳賀 信幸	夏冬これでバイクに乗るのも快適グッズ
優秀賞	中村 翼	被服学校の生徒が考えた洋服のデザインを使ったビジネス
優秀賞	○小西 健吾 高橋 謙	著名人や声優が読んでくれるメール
優秀賞	日下田 涼	Webカメラ内蔵冷蔵庫
優秀賞	○磯井 慎吾 荒井 大亮	片手読書を支えます

○印は共同応募の代表者です。
奨励賞受賞者につきましては下記URLをご覧ください。
http://www.nit.ac.jp/center/pdf/bpc_4th_result.pdf

cm、体重15kg、本田技研工業が開発したASIMOとは

ほ同じ大きさ。本学学生にデザイン案を公募し、愛知万博で「i-unit」を手掛けたプロダクトデザイナーの根津孝太氏が、学生のアイデアを基に外装をデザインした。

ロボットは今後、創造システム工学科のロボット関連授業を通して実際に活用されることになっている。なお、このロボットの名称を一般公募する。
【詳細】<http://se.nit.ac.jp>



2年の小島直之君。今回から独立した委員会として宮代型協働スタイルのモデル事業と位置づけられたので、予算などプレッシャーも大きいという。実行委員会には、20名

彼は、学部の3年生の時に、このイベントに参加していた本学の教員に「作り手」として担ぎ出され、最初は内容もよく分からないまま作業をしていたという。実行委員

イベントに深く関わるようになった小島君であるが、継続して活動してきたのは、ただ単に楽しさだけではない。「確かにイベントとしての面白さはあるが、それよりも

りなど、大学で学ぶこととはまた別の貴重な経験ですと語る。

今までの活動を続けてきた感想と今後の抱負を聞いてみると、自分たちなりに努力をして、その結果、前回は180名という参加者に集まっていたことができた。本当に嬉しかったし、達成感もひとしおでした。私はこのイベントを通じて様々な世代の方と出会い多くの事を学びました。一人でも多くの人が私と同じ喜びを感じてもらえるよう、これからもがんばっていききたいと思っています。

小島 直之君
大学院 機械工学専攻 2年
(立志舎高等学校出身)

■「みやしろイルミネーション」実行委員長



を越える20代の若者が参加し、広報営業、企画、制作、会計などの班に分かれ、10月の参加者顔合わせ会、11月の制作講座、12月の点灯式など積極的に運営している。

そして活動するようになったのも大学の帰りにたまたま会ったイルミネーションの製作仲間から実行委員の募集があるというので参加したもの。そんな偶然から、この

このイベントを行うに当たっての「プロセス」に魅力を感じています。イベントの告知や参加する人たちに楽しんでもらうためにいろいろな試行錯誤した

インタビュの間も彼の前向きな姿勢がよく伝わってきた。今回の「みやしろイルミネーション」は前回以上の盛り上がりを見せている。

日本工業大学と栃木市の連携事業

とちぎ市民学舎発見の森セミナー サイエンススクールin日本工業大学

本学と栃木市が連携し、携して開催している一般向けの2つの事業を開催した。次「とちぎ市民学舎」発見の森セミナー」



和やかな雰囲気でも進む佐藤教授の講義



スチューデントラボで、ものづくり体験

おいて「ものづくり環境の潮流」と題して講義を行った。講義内容は下表を参照。第1回担当の佐藤茂夫教授は、フィンランドのベンチャー企業を取り上げ、若者達が廃棄物の部品を加工してアクセサリ等として商品化し、世界的にヒットさせた事例などを紹介。参加した14名の聴講生は、皆熱心に耳を傾けていた。

サイエンススクールin日本工業大学

11月21日(土)、栃木市の小学校4年生から6年生

10/10(土) 学生環境推進委員会主催 通学路ボランティア清掃



普段通っている通学路のゴミを拾う学生たち

昨年10月10日(土)、学生環境推進委員会が主催する通学路ボランティア清掃が実施された。宮代町内の美化と地域の活性化を目的としており、これで2回目になる。

今回は、宮代町広報でも告知して、一般の宮代町民からも参加を募った。当日は、学生33名、教職員5名、宮代町民3名、社会福祉法人小百合会ふれんだむから

注意しよう！インフルエンザ

依然として新型インフルエンザが猛威を振るっている。これから、寒くなると流行る季節性インフルエンザにも注意が必要。

新型も季節性のインフルエンザも予防法は同じだが1つ違うのは、新型インフルエンザは、これまで人間に感染したことのないウイルスなので多くの人に感染

とちぎ市民学舎「発見の森セミナー」 テーマと担当教員	
第1回	「ごみから世界ブランド商品を作ったフィンランドの若者たちに学ぶ」 佐藤茂夫 教授
第2回	「ごみのゆくえ(ごみは、どこへ消えてしまうのか)」 小野雄策 教授
第3回	「身近な地球温暖化対策は、どのくらい効果があるか考えてみよう」 八木田浩史 准教授
第4回	「文明の跡地は砂漠になる(森を創る文明・森を壊す文明)」 石田武志 講師

宮代特別支援学校から 本学へ体験実習

埼玉県立宮代特別支援学校3年生の清水直也君が11月9日(月)から13日(金)の5日間、財務部経理課で体験実習を行った。本学としては平成18年に受け入れて以来、2回目の受け入れである。

今回の実習では財務システムへの伝票入力作業、現金計算の作業、エクセルの指導を行い、現金残高表を

渡邊君が学会講演会で 優秀学生講演発表受賞



機械工学科梅崎研究室所属の大学院生、渡邊健太君が、平成21年9月26日に開催された日本機械学会関東支部ブロック合同講演会(2009前橋)で優秀学生講演発表賞を受賞した。本賞は新規性、独創性に富み日本機械学会の発展に寄与するところが大きいと認められる優秀な講演をした学生に与えられるもので、講演論文題目は、落下衝撃を

機械工学科梅崎研究室所属の大学院生、渡邊健太君が、平成21年9月26日に開催された日本機械学会関東支部ブロック合同講演会(2009前橋)で優秀学生講演発表賞を受賞した。本賞は新規性、独創性に富み日本機械学会の発展に寄与するところが大きいと認められる優秀な講演をした学生に与えられるもので、講演論文題目は、落下衝撃を

機械工学科梅崎研究室所属の大学院生、渡邊健太君が、平成21年9月26日に開催された日本機械学会関東支部ブロック合同講演会(2009前橋)で優秀学生講演発表賞を受賞した。本賞は新規性、独創性に富み日本機械学会の発展に寄与するところが大きいと認められる優秀な講演をした学生に与えられるもので、講演論文題目は、落下衝撃を

LCセンターがブックログ開設



LCセンターでは、10月の特集展示からブックログを開始。ブックログとはWEB上に

本棚を作成して、書評、おすすめ度などを共有できるブックレビューコミュニティサイトである。特集展示で取り上げている本を、LCセンターに来館することなくチェックが可能。是非、ご利用いただきたい。

サウジアラビア王国大使館から 文化アタッシュが来学



サウジアラビア王国大使館のイサム・ブカリー文化アタッシュが10月15日に来学した。柳澤章学長との会議は、アタッシュが同国の大学が8校から25校に増えたため教員の育成が重要なことになっている近年の高等教育事情を紹介したことを受け、修士、博士課程教育への協力が中心に話し合われた。アタッシュは工学部及び留学生別科の同国留学生とも懇談し、終りに留学生への本学の対応に謝意を表した。

11/28(土) 大木研究室と山地研究室が NPO・大学シンポジウムに参加

昨年11月28日(土)、NPO・大学シンポジウムが埼玉大学で開催された。本シンポジウムは埼玉県NPO活動推進課が窓口となり、県内の大学、NPOを組織して開催されたもので、今回で3回目を迎える。

本学からは、情報工学科大木幹雄教授と山地秀美准教授、及び研究室の学生が参加して、実験授業でNP

国外出張(10月～12月)

◆高瀬浩史講師(情報工学科)／出張先中国(10/31～11/6)／目的宇宙・航行エレクトロニクスに関する国際ワークショップ2009の運営

◆波多野純教授(生活環境デザイン学科)／出張先台湾(11/4～8)／目的文化遺産と災害研討会および第12回文化遺産保存再利用と保存科学国際研討会にて学術発表、金瓜石における文化的景観保存の指導

◆渡部修一教授(創造システム工学科)／出張先中国(11/4～7)／目的中国浙江省景観保存の指導

◆成田剛准教授(建築学科)／出張先インド(10/29～11/7)／目的日本国政府ODA有償プロジェクトにおけるアジャスター・エローラー石宿寺院の保存修復

◆高瀬浩史講師(情報工学科)／出張先中国(10/31～11/6)／目的宇宙・航行エレクトロニクスに関する国際ワークショップ2009の運営

後援会だより 11/1(日) 福島・秋田・青森県支部が大学施設研修 11/3(火) 蔵王支部が「芋煮」を大学祭に出店

大学祭の初日11月1日に後援会福島県・秋田県・青森県の支部より合計24名の会員が視察研修のため来学した。学内施設を見学した後、LCセンターにて柳澤学長が大学の歴史と魅力について講演した。

また3日には蔵王支部が「芋煮」を出店した。「山形の芋煮を学生に味わってもらいたい」という思いを胸に早朝山形を出発した会員有志。新撰組のハッピーを着



柳澤学長が学園の歴史などを説明



若杉祭で出店した芋煮は学生にも好評

Town & Campus メイドインみやしろ 推奨品

推奨品は、町の特産物者がわかるから、その人の思いが伝わってくる。皆さんにとって実り多き一年となるよう、心からお祈り申し上げます。さて、皆さんは「メイドインみやしろ推奨品」というシールが貼ってある商品をご覧になったことありますか？宮代町では、町内で生産・製造、加工または研究された商品の中から、その内容や品質が優れているものを「メイドインみやしろ推奨品」として自信を持ってお薦めしています。

編集後記

あけましておめでとございます。2010年(平成22年)はどのような年になるでしょうか。年初としては、主体的にどのような年にしたいかということが大切で、世の中はこう変わって、も自分の目標を達成する、という強い気持ちが必要で、す。とは言うものの、景気の動向一つみても国内にとどまらず、世界全体の相互影響の中で世の中は勝手に変わるのも確かであり、雇用情勢の悪化等は、その最たるものの一つで、個人の力ではどうし様もできない悩ましい問題です。とにかく学生諸君は、勉強すること、が本分ですので、本年もそのことに邁進し、頑張ってもらいたいと思います。

◆環境配慮の観点から再生紙を使用しております。